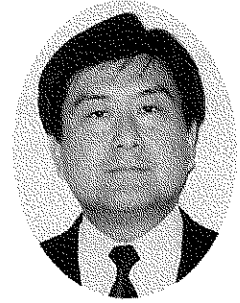


## 窯業室長就任に当たって



通商産業省生活産業局窯業室長

久能木 慶治

平成 11 年 7 月 16 日付けで窯業室長を拜命いたしました久能木でございます。就任に当たり、紙面をお借りしてご挨拶申し上げたいと存じます。

ガラスは、歴史も古く、用途も伝統工芸的なものから先端技術の領域に至るまで広く、今後の可能性も大きなものであり、また、業態としても大企業から中小企業まで幅広く、抱える問題も国際的に取り上げられるようなものから、現場の問題に至るまで様々で、大変やりがいのある分野を担当させてもらえることとなったと喜んでおります。今後とも関係各位のご指導ご鞭撻を得て、微力ながらガラス産業のさらなる発展のため、努めて参る所存でございますのでよろしくお願ひしたいと存じます。

前職は在ニューヨーク総領事館で、空前の好景気に沸く米国経済を目の当たりにしておりました。帰国後、業界の皆様方からお話を伺うにつけ、彼我の違いに驚かされております。ご承知のとおり、米国では年金基金はじめ個人資産もその多くを株式によっているところが大きく、経営は市場の意向を気にせざるを得ず、株価、すなわち投資家の資産に直結する四半期ごとの経営業績が最優先されております。研究開発についても長期的な研究よりも商品に直結する開発が評価される傾向が強まっており、先導的なものはベンチャービジネスや大学が中心となってきているように見受けられました。

ニューガラスフォーラムにつきましては、1985 年に発足されて以降、ガラスに関する世界随一のデータベース INTERGLAD の構築運用、ニューガラスセミナー、ニューガラス大学院をはじめとする各種セミナー、講習会の開催などを通じ、ニューガラス分野における産学交流、啓蒙普及の中核的存在として活躍されていると承知しております。さらに、近年では研究開発の分野にも直接関与され、既にコンジュゲートマテリアルの開発に成果をあげておられるほか、高温物性の評価方法の標準化に取り組まれており、情報基盤の整備に関しても、様々な機能を持つニューガラスの研究開発を効率化すべきデータベースの構築や成形技術の現状と課題のとりまとめを行うなど新たな活動に積極的に取り組んでおられます。また、国際研究協力の可能性を探る調査活動を実施され、INTERGLAD と合わせ国際的な役割をはたされようとしており、その役割、活動に対する期待はますます

す高まっていると申せましょう。

現在、国家産業技術戦略検討会において、2010年頃をにらんだ技術開発目標を設定するべく2000年3月を目指して「国家産業技術戦略」のとりまとめが進められておりますが、この中においても、ニューグラスフォーラムには、それぞれの分野における技術革新の目標設定と実現手段をまとめる分野別技術戦略のうちガラスの部分の策定に中心的な役割をお願いしているところであります。

これらの活動の一端については、工業技術院技術振興課に在職中（1986-1988）から聞き及んでおりましたが、今回その成果を再確認させていただき、さらに活動の輪を広げておられることを伺い、意を強くしているところであります。

ニューグラスは今後ますます成長が期待される分野であり、ニューグラスフォーラムの一層の発展を期待いたしますとともに、窯業室といたしましても、重点のひとつとして取り組んで参る所存でございますので、よろしく願いいたします。